

第2次裾野市環境基本計画の評価結果

1. 概要

「第2次裾野市環境基本計画」の平成29年度の環境に関する取組み内容の進捗状況について裾野市環境審議会（環境審議委員8名）において評価を実施。

実施日時：平成30年12月27日（木）

14:00～16:00

場 所：裾野市役所 402 会議室

2. 評価方法

環境目標ごとに下記の区分で環境審議委員が評価。

区分	進捗状況
A	環境目標(2025年)を達成するために、順調に進捗している
B	一部遅れはあるものの、目標の達成が見込まれる
C	より一層の推進を要する

3. 結果

Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、環境審議委員の評価点数の平均を評価基準に従い総合的に評価。全体評価は環境目標1～5の平均ではありません。

評価基準 A…2.5～3, B…1.5～2.4, C…0～1.4

環境目標	平均	評価
1. 【安全・安心】 安全・安心で快適な環境のまちづくり		
(意見) ○市民の環境に対する意識向上が苦情件数の増加に繋がっている。 苦情件数の減少を目標値としているが、苦情に対する取組後の達成率等で評価すべきである。 ○美化活動等の参加者数の多さから、市民と市の環境保全に対する強い関心が感じられた。 ○下水道計画については長期的に見直す必要がある。下水道を有効に使うために次の指標は接続率にするのはどうか。 ○環境を大切に考えるにはごみのない街を作ること。多くの市民が活動できる仕組みを作るようにしたらどうか。	2.3	B

<p>2. 【自然共生社会】 豊かな自然と人が共生するまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○耕作放棄地解消の取り組み速度が低下している。追加の対策が必要。 ○「緑の基本計画」の具体的目標値作成を行うこと。 ○深良川清掃事業については、清掃範囲やこれまでの参加者の実態を鑑みて目標値の再考が必要。 ○公園については市民がどういう公園を求めているのか検討すること。他市町の公園を利用するのでは定住人口は増えない。 ○清掃活動は清掃をするという目的と手段を市民に伝えることが必要。 ○森林整備、文化財の保全、活用は目につくところ以外も行ってほしい。 ○深良川清掃事業の参加人数は増やすのは難しいのではないか。 ○魅力的なまちづくりとしてテーマを決めて進めては。 ○市街地に花、緑が少ないのに達成率 92.6%はいかがと思う。 	2.0	B
<p>3. 【循環型社会】 環境負荷の少ない循環を基調とするまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人1日あたりのごみの排出量は順調に減少している。市民、事業者がごみの減量に努めている。今後はごみの内訳について検討する必要がある。プラスチックごみは国内外の状況をみながら検討すること。 ○マイクロプラスチック、太陽光パネルのリサイクル方法は調査、対策を立て、指標を作る必要がある。 ○プラごみは事業者に対し、一歩踏みこんだ対策が必要。 	2.4	B
<p>4. 【低炭素社会】 地球温暖化防止に努めるまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太陽光発電、燃料電池、次世代自動車の普及率の目標を定めているが、日々技術革新が生じていることから、再生可能エネルギーの使用率等で評価すべき。 ○燃料電池は一般家庭においてはあまり利便性もなく、再度目標値の見直しが必要。 ○燃料電池を一気に増やすのは無理な計画目標である。 ○バイオマス、小水力発電の研究をするように。 ○市民や企業を巻き込んで色々なアイデアを取り入れる必要がある。 	1.8	B

<p>5. 【環境教育】 持続可能な社会を実現するための人づくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育、環境情報の普及促進に向けて市の強力な取り組みが評価できる。 ○環境活動登録制度が目指した目標を達成するために、市民や登録団体の意見を集め、運用を再考する必要がある。 ○環境活動が評価されるような制度を作ることは大切なので、活動が広がっていくために何かを仕掛けてはどうか。 ○多様な取り組みは評価できるが、今まであるものをただ繰り返している感じもする。何か新しいものはできないか。学校にも期待する。 ○子供だけでなく、多くの大人も参加できるイベントがあればいいのではないか。イベント件数が年によって幅がある。 ○環境活動登録はメリットが少ない。 	2.4	B
<p>第2次環境基本計画 平成29年度進捗状況(全体評価)</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市と市民が環境問題に積極的に取り組んでいる。 ○社会環境が大きく変わっていることから状況を注視し、将来にわたり目標となりえるものを検討していく必要がある。 ○市民の活動も抑えて評価すること。市役所内の評価に留まっている。 ○概ね進捗状況は良好といえる。 	2.5	A